



## 【傷の正しい応急処置】

ケガややけどをしてしまったら、最初の手当てにまずは速やかに流水で傷口を洗い流し、患部を消毒することが大切だと思っている方は多いかもしれませんが、しかし最近では、消毒をせずに傷を比較的早く治し痛みを軽減させ、傷跡も残りにくいという、これまでの常識を覆す手当てが注目を集めています。



傷にも切り傷や擦り傷、刺し傷など実にさまざまな種類がありますが、簡単に言えば皮膚の損傷です。人間には元々、自己治癒力がありケガをすると、傷を修復しようとし、傷口からジュークジュークとした透明の滲出液が出てきますが、実はこの滲出液の中に細胞培養液が含まれていてケガの治癒にとっても役立つのです。このメカニズムを利用して行うのが「湿潤療法（しつじゅんりょうほう）」で擦り傷の患部を“洗浄”のみで治癒するという処置法です。傷口から出血していれば止血→消毒液は使用せず、水道水で洗浄→創傷被覆材で患部を保護し、浸出液が染み出してきたら交換する。

やけどの場合はすぐに流水で10分以上冷やします。この時水圧を強くしすぎないようにし氷は使わないようにします。衣服を着ている部分にやけどを負った場合は衣服の上から冷やします。1.発熱を伴う 2.面積が広い 3.手掌より大きな水疱ができている 4.怖くて自分では処置できないようなやけどの状態の場合は医療機関を受診しましょう。

大きな傷の場合、大量に出血している場合はすぐに救急車を呼びます。待っている間止血を行います。止血は「直接圧迫止血法」を行います。傷口に清潔なガーゼやタオルを当て、その上から強く圧迫する方法です。この時、血液がにじんでこない程度の強さで行い、途中圧迫を緩めて傷を見たりしないようにしましょう。手足の場合は傷口を心臓より高い位置にします。



## 【2月の外来のご案内】

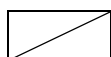
- 形成外科外来 2/4(土)村松先生
- 内科外来 2/18(土)今井五郎先生不在のため、代診は14:00~院長先生、16:00~岡田先生となります。
- 消化器内科外来 2/17(金)福土先生不在のため、休診となります。
- 整形外科外来 2/24(金)午後は金子先生不在のため、午前だけの診察となります。

## 2月の外来診療案内

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

## 3月の外来診療案内

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



午後休診日



休診日

TEL: 0284-71-0181

<http://www.anz.or.jp/>

【発行：医療法人杏林会 今井病院 広報委員会】